

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和3年 3月 8日

事業所名 児童発達支援事業所こうばい 保護者等数(児童数) 52 回収 41 割合 79.2%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	41				・スペースは確保されていると思います。	・今後も、身体をしっかりと使った活動を工夫しながら行っていきます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	37	2			・専門的で子どもの特性をとらえた関わり方をして下さっていると思います。 ・先生たちの専門があれば、自己紹介の写真の所に書いていてくれたら分かりやすいです。	・職員各自が、専門性や得意分野を生かしながら、意思疎通をしっかりと行い、支援につなげるようにしています。 ・今後も、職員一人一人がスキルアップをしきたいと思っています。 ・ご提案ありがとうございます。職員の写真の所に、資格などを明記するようにします。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	37	1			・本人が分かりにくければ、視覚的情報伝達を使い、スムーズに行動に移せるように工夫されていて良いと思います。 ・こうばいでのスケジュールが写真で順番に示してあるので、本人も自ら見て、その日にすることが分かり、楽しみにしているようです ・床もクッションになっていてとても良いです	・今後も子どもたちにとって分かりやすく、生活しやすい環境の工夫をしていきたいと思っています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	40	1			・見た目も清潔で安心して任せられる空間が作られている。 ・2Fが子どものお気に入り、子どもに合わせた遊具を出してくるので、毎回楽しんでいます。	
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	37	3		1		・個別支援計画をたてる時には、子どもたちや保護者の方々のニーズを大事にしています。まだまだ力不足ですが、力量を高めていきたいと思っています。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び以降支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	32	1		8		・児童発達支援ガイドラインは、平成29年度より、制定されました。支援の質の向上を目的に、児童発達支援の内容や運営に関する事項を定めたものです。私たちも内容把握に努めているところです。個別支援計画の中に盛り込まれていますので、今後も、個別支援計画の懇談の際に丁寧に説明していきます。
	7 児童発達支援に沿った支援が行われているか	38	3			・こどもの発達状況に合わせ活動を考え対応されており、有りがたいです。	・個別支援計画に沿って支援を行うように努めています。日々の振り返りやモニタリングを通して、支援内容の見直しも行っていきます。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	33	2		6	・職員をはじめ、子どもたちからの発信で遊びの幅を広げながら遊んでいる気がします。 ・いつも違った取り組みをしていただいています。	・日々活動内容を変えるというよりは、繰り返しの活動の中での積み重ねも大事にしています。積み重ねながら、子どもの様子に合わせて活動内容を展開しています。療育の幅は広げていきたいと思っています。 ・活動の中での子どもからの発信は大事にしています。子どもの気付きに助けられることも多いです。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	21	5	5	10		・泥んこランドやトンネルランドでは、紅梅こども園の子どもたちと一緒に活動する機会があります。今年は、コロナの影響で機会は少なかったと思います。 ・こうばいでは、障害がある・ないというところで、交流を考えているのではなく、地域の子どもたちとの交流として考えています。
	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	41					・契約時に、重要事項説明書と、契約書の中で、説明させてもらっています。今後も丁寧に説明していきます。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供提供すべき支援」のねらい及び発達支援内容とこれに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	37	1		3		・計画ができた際には、懇談をさせていただき説明をし保護者の方からのご意見をいただくようにしています。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	22	5	1	13	・子どもとの接し方にアドバイスをもらったりして助かっています。	・ペアレントトレーニングという形はとっていませんが、振り返りの時間や個別の懇談を通して、家庭支援につながるような助言を心がけていますが、まだまだ、不十分で、力不足だなと感じています。 ・日々の悩みや困り感、不安などについて、保護者の方々と共有し、一緒に考えていきたいと思っています。また、成長の喜びも一緒に感じていきたいと思っています。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解が出来ているか	39	2				・これからも、保護者の方々と子どもの姿を共有しながら、支援していきたいと思っています。
保護							

者への説明等	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	39		1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも相談に乗ってくださり、(色々分からないことだらけで不安だが)有りがたいです。 ・気軽に相談しやすいです。 ・もっと、先生方と話が(アドバイス・工夫など)出来る時間があればいいなと思いました。 ・いつも丁寧に伝えてもらっています。 ・毎回子どもの様子を話す時間があるので、その都度困ったことも寄り添ってくださり助言して下さるので心が軽くなります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか、保護者の方1人1人に寄り添えていないと感じています。こちらからなかなか気付けないことも多く申し訳ありません。保護者からの話や相談には丁寧に対応していきますので、気軽にいつでもお声かけて下さればと思います。また、機会作りも心掛けていきます。 	
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	15	5	5	16	<ul style="list-style-type: none"> ・2Fで保護者の方々と話が出来ているので有りがたいです。 ・同じ悩みを持っている親同士で話をしてみたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の関わりや情報交換の場は、こうばいの支援の一つとして考えています。今年度はそういった場の提供はできませんでしたが、今後、保護者の方々からのご意見を参考に、工夫していきたいと思っています。 	
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	39				2	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことや相談があるときもすぐに対応して下さるので心強いです。 ・いつも親身に相談に乗ってくれたり、子どもの話を聞いてくれて、先生方には本当に感謝しています。 ・連絡ノートのコメントに子どもの立場にたったアドバイスなど先生が書いておられるので、とても育児に役立て励みになっている。 ・丁寧な対応です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も適切に対応していきます。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	38	2					<ul style="list-style-type: none"> ・今後も適切に対応していきます。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務にマンする自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	31			1	8	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの様子を文章にプラス写真を使って提示しており、おたよりを見た時に活動の様子がよく分かるのでよいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もおたよりを通して、こうばいの活動についてお知らせしていきます。 ・ホームページには、自己評価の結果を掲示していますので、ご覧ください。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	35	1			7		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いには今後も十分に気をつけていきます。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	23	1	1	15		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのマニュアルは策定しています。職員間では内容把握に努め、いざという時に行動できるように心がけています。コロナウイルスと自然災害の事前対応については、お手紙で保護者の方に周知しています。 ・いろいろご不明な点については、いつでも説明させていただきますので、お声掛けください。 ・児童発達支援事業所では、年に2回以上の避難訓練が義務付けられています。今年は職員間の机上訓練を1回、午後の年長児の利用日に1回行いました。 	
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	2	1	28			<ul style="list-style-type: none"> ・と同様です。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	37		3		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースで行えることで自信がついてきており、通所を毎回楽しみにしております。 ・大好きな居場所になり、とても楽しんでいきます。 ・普段通っているところよりも大好きみたいです。 ・通所がとても楽しみにしています。 ・毎回のよう「行きたい」と言っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがこうばいを楽しみに来てくれていることが私たちの活力になっています。これからも、子どもたちが主体的に楽しめる活動を工夫していきます。 	
	23	事業所の支援に満足しているか	40				<ul style="list-style-type: none"> ・お友だちとの関わり方やあそび、知識など色々成長してきていると思います。 ・毎週楽しみにしており、自分の居場所として認識している。 ・とても満足しています。いつもありがとうございます。 ・通うたびに有りがたさを実感しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ力不足です。専門機関としてのスキルアップを目指していきたいと思っています。 	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月8日

事業所名 児童発達新事業所こうばい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である			特に2Fの療育室は、子どもたちが、十分に身体を動かして遊べるような広さ、環境です。	
	2	職員の配置数は適切である			少人数のグループの活動にして、より、一人一人に合った関わりを心掛けています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている			刺激に配慮した環境を工夫したり、子どもに応じて、分かりやすい情報伝達の方法を考えています。 (視覚情報など)	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている			丁寧な清掃を心掛けています。今年度は、コロナウイルスへの対応として、毎日、遊具や部屋を塩素系の消毒液で清掃しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している			毎日、職員でその日の活動の振り返りをして、反省点や課題は次回に生かすようにしています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている			昨年度より、保護者の方のご協力のもと、事業所の評価を行っています。保護者の方々からの意見は、真摯に受け止め、改善につなげています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している			年度末には、事業所としての自己評価を行っています。結果については、事業所に紙面で提示し、ホームページにも随時公開しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				第三者による外部評価は現在やっていません。必要に応じて、今後の課題にしていきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している			コロナウイルスの感染予防に気をつけながら、内部研修は工夫して行いました。職員の資質向上につなげています。	今年度は、コロナウイルス感染症の影響を受け、外部研修はほとんど行えませんでした。次年度は研修の在り方もオンラインなど変わってくると思います。積極的に参加を考えたいと思います。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している			作成は担当者が行いますが、目標は、アセスメントをもとに、職員全員で立てています。	まだまだ力不足は感じています。よりよい計画が作成できるように、研修などを通してスキルアップしていきたいです。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			子どもの発達の状況、行動の状況が分かるようなアセスメントツールを使っています。	

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている			計画を立てる時には、ガイドラインと照らし合わせながら、考え、支援内容を、設定しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている			個別支援計画にそって、支援を行うようにしています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている			各グループごとにリーダーの職員がおり、リーダーを中心に活動内容をみんなで考えています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している			活動の積み重ねも大事にしたいので繰り返しの活動も大事にしています。子どもの様子や変化に応じて、活動も変化させています。また、季節に応じた活動も心掛けています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している			まずは、個のニーズや願いを満たす支援を計画に入れるようにしています。そのうえで、グループの中での子どもの姿やグループとしての目標などを考えています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している			各グループのリーダーを中心に、その日の活動の簡単な確認を行っています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			支援終了後には、職員間で振り返りを行い、子どもの姿や支援の反省点など、気づきを共有しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている			日々、記録を取っています。計画の見直しの時には、支援記録を見直したりしています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している			六か月ごとにモニタリングを行い見直しをし、保護者とも話をして意見をもらうようにしています。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している			外部との連携は、児童発達支援管理責任者が行っています。連携の前には、各担当の職員と連携をしています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている			必要に応じてしています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			平行通園の幼稚園や保育所、こども園と年に何回か連携を取らせてもらい、情報の共有や相互理解につなげています。	まだまだ十分には行えていないと感じています。(回数、内容)今後は今以上に、連携ができればと思っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			必要事例に関しては、相談支援事業所と連携を取って行ったケースもあります	就学後の連携をどこまでできるのか、今後の課題として考えていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			三原市では、児童発達支援部会があり、三原市内の事業所と一緒に研修会をしたり、連携を行っています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			泥んこランドやトンネルランド等の行事の時には、紅梅こども園と子どもたちと一緒に遊んでいます。 こうばいでは、障害のあるなしではなく、地域の子供たちとの交流として考えています。	今年度はコロナウイルスの影響を受け、機会は少なかったです。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			三原市の児童発達支援部会には、積極的に参加しています。	地域とのつながりはまだ十分でないので、今後できることを考えていきたいです。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている			振り返りの時間やモニタリング時の懇談などを通して、保護者の思いを聞きながら共通理解につなげています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている			日頃から、保護者の思いを聞き共有共感をしながら、成長をともに喜んだり、困りごとや不安について一緒に考えたりしています。	ペアレントトレーニングなどについては、知識不足で、取り組んでいません。今後も今のところ予定していません。情報などは得るようして、情報提供などできればと思っています。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		利用契約時に、重要事項説明書を用いて説明をしています。	運営規定については説明を行っていませんが、掲示していますので、何かあればお尋ねください。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		モニタリング時に、個別支援計画について、保護者に説明し、保護者からの意見を聞いて、同意を得るようにしています	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		振り返りの時間やモニタリング時の懇談の中で、保護者の思いや悩みを聞き相談に応じています。その他、必要に応じて個別相談の時間にも応じています。	なかなか、解決に至るような助言にならない時もあり力不足も感じています。必要な情報提供や支援ができるようにスキルアップしていきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		保護者同士の連携は大事にしたいと思っています。親子利用日では、保護者同士のつながりが感じられます。	日々利用の事業所なので、保護者会などは難しいと思います。保護者同士の連携の機会作りとして、参観や茶話会など考えていましたが今年度はコロナウイルス対応で行いませんでした。保護者同士の連携の支援は大事だと思っていますので、事業所でできるものを今後工夫していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		保護者からの相談には、その都度、対応させてもらっています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		月初めに、お便りを発行し、月のねらいや子どもの様子などをお知らせしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している		個人情報の取り扱いには十分に気を付けています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		日々、子どもや保護者との話の中で意思疎通は心がけています。必要な情報は、掲示や案内で知らせています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		子育て支援センターと併設されており、その点では、地域とのつながりがあります。	特に、事業所としての必要性は感じないので、今後も予定はしていません。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している			危機管理マニュアルを作成しており、職員間では確認をしています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			年に2回避難訓練を行っています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している			入所時に、児童票や入所時記録などで確認しています。必要に応じて、保護者と細かい確認を行っています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			給食ではないので、医師の指示書はもらっていませんが、食物アレルギーについては、入所時に保護者に確認し、対応しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している			事故防止のために、ヒヤリハットを作成し、職員全員で検討しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている			虐待防止の研修には参加しています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している			利用契約書の中で、事業者の具体的義務として、説明しています。	